

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2645 号

Usefulness of Incorporating Hypochloremia into the Get With The Guidelines-Heart Failure Risk Model in Patients With Acute Heart Failure

急性心不全患者における低クロール血症を含めた The Get With the Guideline 心不全リスクモデルの有用性

三角 香世 (みすみ かよ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、急性心不全患者における心不全予後予測院時リスクスコアに低クロライド血症を含めることで予後予測能が上昇することを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

低クロール血症が心不全の予後と強く相関していることが明らかとなっており、本研究では低クロール血症を含めたリスクモデルが予後予測能を向上させるかを検討した。リスクモデル作成コホート (n=1,428) で、既存のリスクスコアである The Get With The Guidelines®-Heart Failure (GWTG-HF) リスクモデルに加え、GWTG-HF に脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) を加えたリスクスコア (GWTG-BNP) および、BNP と低クロライド血症を加えたリスクスコア (GWTG-BNP-CL) の 2 つの新たな急性心不全リスクスコアを作成した。これらのリスクスコアはモデル妥当性検証コホートにおいて、GWTG-HF と GWTG-BNP、GWTG-BNP-CL のいずれも良好な精度であることが示された (曲線下面積: 0.742, 0.749, 0.763)。しかしながら、net-recalibration improvement (NRI) において、GWTG-BNP-CL は GWTG-HF や GWTG-BNP と比較して予後予測精度が上昇することが示された (NRI: vs. GWTG-HF 0.491, $P < 0.01$, vs. GWTG-BNP 0.408, $P < 0.01$)。さらに、較正能において、GWTG-BNP-CL は良好な較正能を得た (Hosmer-Lemeshow test: $P = 0.479$) 以上より、低クロライド血症を加えた急性心不全リスクモデルは、既存のリスクモデルと比較して有用であることを示した。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。